

令和6年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和6年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、「児童生徒が主体の楽しくわかる学び」の実現に向け、ICT機器を効果的かつ効率的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの在り方について研究を進めています。また、個に応じたきめ細やかな指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことができる環境づくりに努めています。さらには、お互いに認め合う学級・学校づくりに努め、幅広い交流並びにインクルーシブ教育にも力を入れています。これらの学校教育で培われた力が児童生徒に定着していることを確認する目的で、本調査を行っております。本調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用し、今後の授業改善に役立てていきたいと思っております。

本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひ話題にしてください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数」「中学校 国語・数学」において実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語	同程度	高い
	算数	やや低い	高い
中学校	国語	同程度	高い
	数学	同程度	高い

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくこと ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること ○文の中における主語と述語の関係を捉えること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを検討したり明確にすること ▲登場人物の相互関係や心情について、描写を基に捉えること ▲文の中で正しく漢字を使うこと

算 数	<p>○計算に関して成り立つ性質を利用して、計算の仕方を考察し、式や言葉を用いて説明すること</p> <p>○二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、分類整理すること</p> <p>○示された情報を基に、表から必要な情報を読み取り、式に表し、基準値を超えるかどうか判断すること</p>	<p>▲問題場面の数量の関係を捉えて、式にすること</p> <p>▲直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること</p> <p>▲除法が小数である場合の計算をすること</p> <p>▲速さなどの意味や表し方を理解し、場面や目的に応じて答えること</p>
--------	--	--

【国語】

- オンラインで交流する場面において、書き言葉を話し言葉に変えて、相手にわかりやすい話し方に変えたり、表現を工夫したりすることについて、正確に捉えることができていました。日頃から、国語だけでなく様々な学習の場面において、相手意識をもって話す活動を取り入れている成果です。自分の思いや考えを表現する力は、今後、ますますあらゆる場面で必要になってくる力だと言えます。
- 物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書くことがよくできていました。記述問題でしたが、無回答率が全国平均や県平均に比べて低かったことは、日頃から物語を読んで感想や考えを自分の言葉で表現することを大切にしている成果です。また、読書記録を読んで、適切な振り返りを選択することもよくできていました。読書が自分の考えを広げることに役立っていることに気づき、本に親しんでいることが伝わります。
- ▲学校のよさを伝える文章を書くために、集めた材料を分類したり関係付けたりしている内容として適切なものを選択することが、全国平均や県平均と比べて、やや低い結果となりました。資料から内容を読み取ることは、国語以外の教科でもよく出題されます。
- ▲事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるようにまとめることに課題が見られました。目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫する力を身に付けていけるといいです。

【算数】

- 桜の開花日についての問題で、示されたデータから必要なデータを取り出して、落ちや重なりが無いように分類整理することはよくできていました。また、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り、基準値を超えるかどうか判断する問題も全国平均や県平均より高い結果となりました。日頃から、必要な情報をきちんと読み取り、整理する力が身に付いていることがわかります。
- ▲ボールがぴったり入る直方体の体積を求める式を書く問題に課題が見られました。ボールの直径が直方体の一辺と同じであることに気づけなかったと思われます。また、円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さを求める問題も全国平均や県平均より低い結果となりました。側面の長方形の横の長さとの円周が同じ長さであるということを理解していないように思われます。日頃から、算数用語とその意味、それらの関係性について一体的に理解していくことが大切です。
- ▲速さ、道のり、時間の意味や表し方を理解し、言葉や数字を用いて、それらの関係を記述する問題に課題が見られました。特に、同じ道のりにかかる時間の違いによって、速さを説明する問題が低い結果となりました。速さの意味の理解が不十分だと思われます。機械的に問題を解くのではなく、場面状況を捉えながら、一つ一つの意味を理解した上で説明する力を付けていけるといいです。

▲ $540 \div 0.6$ の計算に大きな課題が見られました。計算の意味を理解して、繰り返し練習することも大切です。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて、質問しながら話の内容を捉えたり、資料を用いて自分の考えをわかりやすく話したりすること ○話し合いの課題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること ○文章と図とを結び付けて、その関係を踏まえて内容を解釈すること ○文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と事例との関係を捉えること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲短歌の表現の技法について理解すること ▲短歌の内容について、描写を基に捉えること
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○等式を目的に応じて変形すること ○一次関数について、式とグラフの特徴について理解すること ○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法計算ができること ○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して、解釈すること 	<ul style="list-style-type: none"> ▲連続する二つの偶数を文字を用いた式で表すこと ▲データの分布の傾向を比較するために表された箱ひげ図を用いて、判断の理由を説明すること ▲筋道を立てて考え、三角形の合同を証明すること

【国語】

○フィルターバブル現象の資料をもとに話し合う場面において、発言の意図を捉えたり自分の考えがわかりやすく伝わるように資料を示したりすることがよくできていました。また、話題や展開を捉えて、自分の考えをまとめることもできました。記述式でしたが、無回答率も低く、県平均や全国平均よりも高い結果となりました。日頃から、話し合う活動に取り組み、自分の考えを伝えている成果だと思われます。

▲「月と風景」がテーマの短歌を3作品読み、そこで用いられている技法について適切なものを選ぶことに課題が見られました。また、短歌に詠まれた情景の時間帯について、描写を基に読み取り、時間帯の順に並び変える問題は、低い結果となりました。言葉に注目し、その表現にどのような効果や働きがあるのかを考えながら古典を楽しむことができるようになるといいです。

【数学】

○等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く問題は、県や全国の平均正答率よりも高い結果でした。等式を目的に応じて変形する力がきちんと身に付いていると言えます。

○2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める問題は、県や全国の平均正答率よりも高い結果となり、8割の生徒ができていました。

○18Lの灯油をちょうど使い切るように、ストーブの「強」と「弱」の設定の組み合わせについてグラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する問題は、8割以上の正答率となりました。グラフの意味を正確に理解できた結果だと考えられます。情報から問われている内容を読み取る力は、多くの生徒に身に付いていると言えます。

▲ n を整数とするとき、連続する二つの偶数をそれぞれ n を用いた式で表す問題に課題が見られました。「連続する」「偶数」というところが難しかったようです。文字を用いた式で、数量及び数量の関係を捉えることにより、文字を用いることのよさを実感できるようになるといいです。

▲車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張する理由を箱ひげ図を比較して説明する問題の正答率が3割に届きませんでした。箱ひげ図を読み解き、数値を根拠にした物理的現象を説明する力が求められています。箱ひげ図の理解とともに、データの分布の傾向について、判断した理由を自分の言葉で説明できることが大切です。

▲点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACと正三角形QCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを証明する問題の正答率が3割に届きませんでした。問題の中に「合同な三角形を示すことで証明できます」と記載されていましたが、考えを文章で表現できなかったことから、証明への苦手意識が強いのではと考えられます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、昨年度と比較して改善が見られるものや県・全国の平均値と比べて上回ったものを中心に、「改善したい点」として、昨年度と比較してよくない結果となったものや県・全国の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。ただし、昨年度とは児童生徒が異なっていますので、勝山市の児童生徒の傾向として受け止めていただければと思います。

<小学校>

良好な点	改善したい点
○寝る時間が決まっている児童の割合はやや増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R5 87.3% → R6 87.9%) (市 87.9% 県 85.8% 国 82.9%)	▲「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が減少している。 (R5 89.2% → R6 85.4%)
○起きる時間が決まっている児童の割合も増加し、県や全国平均と比べ、高い。 (R5 90.1% → R6 94.9%) (市 94.9% 県 93.6% 国 91.6%)	▲「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童が減少している。 (R5 89.8% → R6 86.0%)
○「人が困っているときは、進んで助けている」と答えている児童の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R5 92.3% → R6 94.3%) (市 94.3% 県 93.4% 国 92.7%)	▲「学校に行くのは楽しい」と答えた児童が減少している。 (R5 91.1% → R6 82.3%)
○「5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいた」と答えた児童が増加し、県	▲「友達関係に満足していますか」と答えた児童の割合は、減少し、県や全国平均よりも低い。

<p>や全国平均と比べ高い。(R5 84.0% → R6 87.9%) (市 87.9% 県 86.0% 国 81.9%)</p> <p>○「学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を求めている」と答えた児童の割合は、やや増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R5 87.2% → R6 88.6%) (市 88.6% 県 87.9% 国 84.2%)</p> <p>○「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童の割合が増加し、県や全国平均より高い。(R5 89.2% → R6 91.8%) (市 91.8% 県 88.6% 国 82.5%)</p>	<p>(R5 91.0% → R6 86.7%) (市 86.7% 県 92.5% 国 91.1%)</p> <p>▲「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」と答えた児童が減少している。 (R5 98.7% → R6 86.1%)</p> <p>▲国語・算数・理科・英語の各教科で、それぞれ「好き」と答えた児童が全て減少した。また、それらの授業が大切だと思うと答えた児童の割合も減少している。</p>
--	---

- 「寝る時間が決まっている」「起きる時間が決まっている」と答えた児童の割合が増加したのは、ご家庭において規則正しい生活習慣を身に付けるために、保護者のみなさまにご協力いただいたおかげです。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子様と生活リズムについて考える機会を定期的にもっていただくとありがたいです。
- 9割の児童が、「人が困っているときは、進んで助けている」と答えています。道徳教育や人権教育などを通して、優しい心が育っていることが伺えます。
- 「5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいた」と感じている児童が多いことから、主体的に学ぶ姿勢が育っていることが伺えます。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」という項目も、昨年度より高い結果となっています。昨年度から市内の全小学校で取り組んでいる“協働的な学び”の充実が大きく関わっていると考えられます。自分の意見を友達の意見と比較し、さらに理解を深めたり広げたりしていこうという学習のスタイルが定着してきたと言えます。自分の意見に根拠をもって、自信をもって積極的に表現できる児童が増えるよう、一人一人の考えを大事にしていきます。
- 「学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を求めている」「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と答えた児童の割合も昨年度より増加しています。学級での話し合う活動が大切にされ、それによってよりよい人間関係、自己形成が行われていることが伺えます。今後も、話し合う活動を充実させながら、居心地の良い学校づくりを目指していきます。
- ▲「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が減少しました。各校で取り組んでいるポジティブ教育をより進めながら、自己肯定感を高める活動を多く取り入れていきたいと思えます。また、キャリア教育の充実を図り、将来の夢や目標が持てるような取り組みにも力を注いでいきます。
- ▲「学校に行くのは楽しい」と答えた児童が減少し、「友達関係に満足している」と答えた児童も減少しました。楽しい学校生活と友達関係は、大きく関係しています。安心した学校生活を送るためには「居場所」が必要です。同時に、「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」と答えた児童も減少しました。相談できる教員、相談のできる友達がい

る場所としての学校運営、学級経営に努めていきます。ご家庭でも、お子様との会話の中から、お子様の行動の様子から、気になることがありましたらすぐに学校にご連絡いただき、保護者と学校が共に考えることで、どの子も「学校に行くのは楽しい」と思えるように努めていきます。

▲「国語の勉強は好き」「理科の勉強は好き」と答えた児童がやや減少、「算数の勉強は好き」「英語の勉強が好き」と答えた児童が大幅に減少しました。また、「国語の勉強は大切」「英語の勉強は大切」と答えた児童も減少しています。児童が「わかる・楽しい」と思える授業改善に向けて研究を進めていきます。また、児童理解を図り、一人一人に寄り添った授業づくりに努め、学ぶことの楽しさや学ぶ意味を感じられるような授業を目指します。

<中学校>

良好な点	改善したい点
<p>○寝る時間が決まっている生徒の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R5 80.1% → R6 86.9%) (市 86.9% 県 83.2% 国 80.7%)</p>	<p>▲朝食を毎日食べない・ほとんど食べないと答える生徒の割合が県の平均より多い。 (市 7.6% 県 6.6%)</p>
<p>○起きる時間が決まっている生徒の割合も増加した。 (R5 89.2% → R6 90.5%)</p>	<p>▲学校の時間以外に、全く勉強をしない生徒がいる。</p>
<p>○「人の役に立つ人間になりたい」と答える生徒の割合が増加し、県や全国平均と比べて高い。 (R5 95.0% → R6 97.6%) (市 97.6% 県 96.0% 国 95.2%)</p>	<p>▲「1・2年生の時に受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え取り組んでいた」と答える生徒が減少し、県の平均より低い結果となった。 (R5 89.4% → R6 82.1%)</p>
<p>○「学校に行くのは楽しい」と答える生徒の割合が県や全国平均と比べて高い。 (R5 78.9% → R6 89.9%) (市 89.9% 県 87.4% 国 83.8%)</p>	<p>▲2教科ともに解答時間は十分と答えた生徒の割合は、県や全国平均と比べて低い。 (国語：市 24.2% 県 32.6% 国 33.2%)</p>
<p>○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答える生徒の割合は高く、県や全校平均と比べても高い。 (R5 74.0% → R6 84.5%) (市 84.5% 県 79.0% 国 76.1%)</p>	<p>(数学：市 32.3% 県 40.9% 国 41.0%)</p>
<p>○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と答える生徒の割合は増加し、県や全国平均と比べ高い。 (R5 82.4% → R6 85.1%) (市 85.1% 県 80.8% 国 75.4%)</p>	
<p>○「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と答えた生徒の割合は、県や全国平均に比べ高い。 (市 88.7% 県 82.0% 国 79.0%)</p>	
<p>○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発展するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。 (R5 87.3% → R6 91.6%)</p>	

(市 91.6% 県 88.4% 国 82.2%)

○「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。

(R5 89.4% → R6 92.2%)

(市 92.2% 県 91.3% 国 86.3%)

○「国語の勉強が好き、授業の内容はよく分かる」と答えた生徒の割合は増加し、県や全国平均に比べ高い。

(好き : R5 72.6% → R6 79.1%)

(市 79.1% 県 71.8% 国 64.3%)

(よくわかる : R5 84.5% → R6 91.1%)

市 91.1% 県 87.5% 国 82.7%)

○1、2年生のときに受けた英語の授業に関する質問の5項目のうち4項目において、肯定的な解答の割合が昨年度より増加した。

(英語を聞いて概要や要点をとらえる活動を行う :

R5 73.3% → R6 85.1%

市 85.1% 県 84.5% 国 83.3%)

(英語を読んで概要や要点をとらえる活動を行う :

R5 78.2% → R6 85.1%)

(原稿などを準備することなく即興で英語で伝え合う :

R5 64.1% → R6 76.2%

市 76.2% 県 74.8% 国 68.8%)

(英語で書く活動を行う :

R5 80.1% → R6 88.7%)

○小学校同様、「寝る時間が決まっている」「起きる時間が決まっている」と答えた生徒の割合が増加したのは、規則正しい生活習慣を身に付けるために、保護者のみなさまにご協力いただいたおかげです。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子さんと生活リズムについて考える機会を定期的にもっていただけるとありがたいです。

○「人の役に立つ人間になりたい」と思っている生徒が増加しました。同様に「人が困っているときは進んで助ける」という項目も増加しています。自分一人で生きているのではなく、たくさんの人に支えられていることを実感し、自分自身もそうなりたいと思っていることが伺えます。感謝の気持ちを忘れずにいることは、人として大きな魅力です。

○「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合が、昨年度と比べ大幅に増加しました。楽しいと感じることは人それぞれ違うと思いますが、学校行事や日常の生活がコロナ前に戻ってきたことが大きく影響していると考えられます。目の前の生徒全員が楽しいと感じることを増やすために、一人一人に寄り

添った学校経営、学級経営を意識して教育活動を進めていきます。

○「地域をよくするために何かしてみたい」という項目において、肯定的な回答の生徒の割合が8割を超え、大幅に増加しました。住んでいる地域をよくしたいという思いは、多くの生徒がもっているようです。その気持ちを大切に、地域のために行動できる人材育成に努めていきます。

○授業において、他教科との関連を考えながらまとめるなど主体的な学びが定着してきたことがわかる結果が多く見受けられました。主体的な学びは、生徒にとって印象深く、定着しやすいものであると考えられます。また、次につなげようとする意欲になります。現在、各学校で研究を進めている、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実をさらに進め、自分にあった学び方の選択ができるよう支援していきます。

○「学級をよりよくするための話し合いに互いの意見のよさを生かすことができている」と感じている生徒が多いことは、自分の考えを積極的に表現できる環境であるということです。多くの生徒が積極的に表現できる環境とは、周りが意見に耳を傾けてくれると感じることができ、安心して過ごすことができる環境であると言えます。今後も一人一人を大切に、互いを尊重し合える仲間づくり、絆づくりを進めていきます。

○英語の授業の内容において、概要や要点を捉える活動や聞いたり読んだりした内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動など、多くの項目で「授業で行っている」と感じている生徒が昨年度より大幅に増加し、県や全国平均よりも高い結果が見られました。授業で行っている内容について、目的を理解し納得して学んでいることが伺えます。英語だけでなく、全ての教科で言語活動の充実を図り、更なる授業改善に努めます。

▲朝食を「ほとんど食べない」「食べない」と答えた生徒が昨年度よりも増加し、県の平均よりも高い結果となりました。なぜ、朝食を食べることができないのか、その原因を明らかにし、改善できるといいです。

▲学校の時間以外に、全く勉強をしない生徒がいます。県や全国と比べると少ないですが、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いということです。主体的に学ぶ気持ちや態度は、学習習慣と大きく関係すると考えられます。家庭での学習習慣が少しずつでもよいので身に付いてくるといいです。

▲「1・2年生の時に受けた授業で、課題の解決に向けて取り組んでいる」と答えた生徒が減少し、県の平均よりも低い結果となりました。良好な点で示したように、学んだことをまとめたり他の学習で生かしたりすることはよくできています。今後は、自分で課題を見つけ、学びを進めていくことが求められます。学校でも、さらに研究を進め、生徒が自ら課題を見つけ、探究できる授業づくりに取り組みます。

(2) 正答率との間に関連が見られた質問項目について

ここ数年の分析と今年度特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを8例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にしてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
就寝時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。	小学国語	16ポイント差
3回連続同じ傾向	小学算数	34 "

	中学国語 28 〃 中学数学 50 〃
「前学年までに受けた授業において、うまく伝わるように、理由を示したり、資料や文章、話の組み立てを工夫したりしている」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 8回連続同じ傾向	小学国語 40ポイント差 小学算数 35 〃 中学国語 18 〃 中学数学 27 〃
「前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている生徒は、正答率が高い。 5回連続同じ傾向	小学国語 32ポイント差 小学算数 30 〃 中学国語 36 〃 中学数学 31 〃
「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童生徒は、正答率が高い。 4回連続同じ傾向	小学国語 14ポイント差 小学算数 31 〃 中学国語 20 〃 中学数学 20 〃
「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。 4回連続同じ傾向	小学国語 29ポイント差 小学算数 26 〃
「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向	小学国語 42ポイント差 小学算数 37 〃 中学国語 33 〃 中学数学 35 〃
「総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒は、正答率が高い。 4回連続同じ傾向	小学国語 18ポイント差 小学算数 17 〃 中学国語 43 〃 中学数学 30 〃
「〇〇の勉強は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 国語と算数・数学は4回連続同じ傾向	小学国語 18ポイント差 小学算数 22 〃 中学国語 20 〃 中学数学 30 〃

○基本的な生活習慣に関する結果を見ると、これまでも起床時間が定まっている児童生徒は、正答率が高いという傾向が見られましたが、就寝時間が定まっている児童生徒も正答率が高いという結果が見られました。全体的に捉えると、やはり規則正しい生活を送ることは、学習を計画的に行うことにつながり、学習を効率よく進めることにもつながることがわかります。年齢が上がると生活習慣が乱れやすくなりがちですが、今回中学生の起床時間、就寝時間が定まっているという生徒が増加しているのはよいことと考えます。また、朝ごはんを毎日食べることについては、小学生、中学生共に「全く食べない」と答えた児童が数名おり、正答率にも大きな差がありました。やはり食べると食べないとは、授業に対する集中力ややる気が変わってくるものと思われます。自分で自分を管理しきれない小学生段階では、保護者の手助けが重要になってきます。学年が上がるにつれて、自分で判断し、行動に移すことができる力をつけていけるよう、学校と家庭が共通理解のもとお子さんを支援していけるといいです。さ

らに、中学生では見通しをもって行動する力が求められます。おのずと主体的に行動する力が身に付くよう、睡眠や食事のとり方などを含め、毎日のスケジュール管理や考査前の計画など、工夫しながら進めていけるよう支援していきます。

○前学年までに受けた授業に関する質問で、①「うまく伝わるように理由を示したり、話の組み立てを工夫したりしている」②「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目は、ここ数年連続で、否定的な回答をしている児童生徒に比べ、肯定的な回答をしている児童生徒の正答率がかなり高いという結果でした。学習に対し、主体的に取り組んでいることを自覚している児童生徒は、学力が定着していることの証拠です。得意な学習、好きな教科だけでなく、すべての取組に対して、自分にあったやり方で自分のものにしていく根気が身に付くとすばらしいです。

○自分と違う意見について考えたり、学級の友達と話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えたりするなど、意見の交流を大切にして、自分の考えをよりよいものにしていくことは、深い学びを実現していくためには欠かせない要素であると考えられます。協働的な学びが、多様な考え方や意見を生み出すためには重要であるので、今後も学び合う場面を多く設定していきます。

○総合的な学習の時間において、課題解決に向けて自分で考えたことや調べたことを、上手く伝えるようにまとめたり、発表したりする活動を主体的に行うことができている児童生徒は、学力が定着していることがわかります。タブレット端末を上手に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの充実により、自分たちで学びを展開していくことができるように、支援していきます。

○好きな教科の正答率が高いという傾向は、毎年変わらず見取ることができます。好きな教科は意欲的に学習できるため、おのずと正答率はあがります。好きな教科をつくるためには、興味や疑問をもって学習に臨むことが鍵になってくると考えます。難しい＝苦手ではなく、難しい問題を解くことができた達成感を味わうことも重要です。児童生徒が難しい課題に立ち向かう力、解決する力をつけるための支援を引き続き行っていきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>安心して、楽しく学習や活動に取り組める環境づくり

最も大切にしたいこととして、児童・生徒が安心して学習や活動に取り組むことができる環境を提供できるよう、全教職員が共通理解のもと教育活動を進めていきます。そのためにも、一人一人を大切にされた学級経営や授業づくりに努めます。また、いじめや不登校等を生まない「魅力ある学校づくり」にも力を入れていきます。児童・生徒がお互いのよいところを認め合い、他人への思いやりの心が育つよう支援していきます。また、個性を大切に、多様性を認め合う心を養いながら、人と人とのつながりを意識し支えあう中で、共生社会の実現を目指していきます。不安や問題を抱えている児童生徒に対しては、家庭および関係機関との連携のもと、気持ちに寄り添った支援を迅速に行っていきます。

<イ>児童生徒が主体の楽しくわかる学びの推進

学力の向上には、児童生徒が主体的に学ぶことが不可欠です。主体的な学びを進めるためには、自ら課題を設定し、ICT機器を活用して情報を集め、それらを整理しながら、友達と意見交流や考えを共有する中で、自分なりの答えをまとめ、表現するといった学習展開が必要です。すべての

教科で、既習事項を生かしたり、疑問に思ったことを追究したりしながら、さらに次の学びへつなげていけるよう支援します。タブレット端末を用いることは、学習の中ではごく自然に行われるという感覚になってきています。児童生徒が使っている姿を見ても想像以上にスムーズです。学習ツールの1つとして自然に選択できるまでになってきたことは大変よいことです。今後は、ICT機器をよりよく使いこなせる情報化社会を生きる人として、判断力を磨き、責任をもって利用する児童生徒が育つための支援（デジタル・シティズンシップ教育）を充実させていきます。児童生徒一人一人の学びの進捗状況や良い点を教員が積極的に評価し、学習意欲の向上に努めるとともに、指導の過程や成果の評価を授業改善に生かしていきます。

（2）ご家庭にお願いしたいこと

＜ア＞規則正しい生活習慣の定着

児童生徒の学力向上のベースは規則正しい生活習慣であると考えます。健全な学校生活を送ることができてこそ、学力の定着が図れるのです。小学校低学年では、見通しを持てるように手厚く支援していただき、小学校高学年では、少しずつ自分で判断して実践することを増やしていきながら、中学生では、自分のことは自分で管理し、責任ある行動をすることができるようになることが理想です。生活習慣の大切さを児童生徒自身が理解できれば、週末や長期休業で生活リズムが崩れることも少なくなると思われます。“規則正しくしなければならない”ではなく“規則正しい生活がしたい”と思えるような感覚を身に付けることができるよう、今後とも見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

＜イ＞児童生徒の学習状況の把握

学校は、学期に1度お子様の学習の状況を保護者の方にお伝えしています。何が得意で、何に力を入れていくとよいのかを、学校生活の中での成長をわかりやすく伝えるように努めています。ご家庭においても学習の内容を話題に挙げ、お子様が学習の様子を自分で語る機会をぜひ大切にしてください。そして、今何をがんばっているのかを把握をしていただけるとありがたいです。保護者懇談でお話していることをより深くご理解いただけることと思います。家庭と学校で一緒にお子様のがんばりを認めていけると、より自信をもって学び続けることができると考えます。

＜ウ＞学校と家庭の連携、関係機関との連携

学校では、安心して過ごすことができる環境づくりに努めていますが、問題が全く起こらないようにすることは困難です。いじめ等の問題行動や不登校等の未然防止には、学校と家庭が連携し、できるだけ早く発見し、対応していくことが欠かせません。何か気がかりなことがありましたら、些細なことでも学校に連絡相談いただくと助かります。大きな問題になる前に、児童生徒に関わるすべての方の協力で防ぎたいと考えます。また、必要に応じて専門的な機関との連携も、保護者の方の理解のもと進めていきたいと考えております。

以上の点につきまして、ご協力をお願いいたします。

【5】結び・おわりに

今年度の結果は、全国平均と比較すると小中すべての教科で「高い」と捉えることができるもの

の、県平均と比較するとほとんどの教科で「同程度」小学校では算数で「やや低い」という結果でした。結果の良い悪いだけで、児童生徒のがんばりを評価することはできませんが、勝山市全体として、今回の結果とこれまでの取組みを振り返ることで、今後の児童生徒の主体的に学びに向かう姿勢につなげていこうと考えます。学びには、新しい発見や驚き、疑問をもつことが大切です。新しい知識や考えが備わっていく過程を自ら楽しみながら学ぶことができる児童生徒が育つようしっかりと支援していきます。

質問紙調査を分析していくと感じられる「不易と流行」があります。不易＝昔から変わらない部分としては、規則正しい生活を送ることができる児童生徒、すなわち自己管理能力が備わっている児童生徒は、計画的に学習に取り組むことができるだけでなく、学習に対する効果も高いものであるということです。流行＝時代とともに変わりゆく部分は、主体的な学びをどう捉えているかによって、学びの質が変わるということです。自分の中だけで、「わかったから終わり」ではなく、「これまで学んだことをもとに」「友達の考えをもとに」など、よりよい答えを追究していく姿勢や意識があると、学ぶことが楽しくなると考えられます。両方を大事にした「学びの在り方」を全教職員で追究していきます。

この全国学力・学習状況調査では、児童生徒の学びの成果の一部を調査したに過ぎませんが、大きく変化し続ける社会を生き抜くための力を育成するためには、小中学生の間に主体的に学びに向かい、困難な課題にも立ち向かって解決する力を付けていくことが重要になります。そうした観点から、この調査の結果を各校でもより具体的に分析しながら、より一層、学力向上に努めてまいります。

保護者の皆様をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。